



発行責任者 久敬 晴地 磯高 主教
大阪教区事務所 06-6621-2179
京都教区事務所 075-431-7204
通算号数 大阪490号、京都750号

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」

マタイによる福音書5章9節

2001年9月11日、全世界の人々が信じられないような映像を見ました。

大型の航空機2機がニューヨークの世界貿易センタービルに衝突。爆発炎上してついにはツインタワーが崩落していく映像です。

当時僕は京都聖三一教会の牧師をしていましたが、京都キリスト教協議会(KCC)の関係で京都宗教連盟の常任理事を拝命していました。

事件直後、早速緊急の理事会が立正佼成会京都教会の普賢館大会議室にて開催されました。主な決議は宗教を超えて世界平和を祈念する平和講演会の開催と、アメリカ大統領に戦争回避へ最大限の努力

をして欲しいと嘆願書を郵送することでした。

平和講演会は同志社大学の栄光館で開催することが多くの宗教者たちのご協力で盛会のうちにできました。

しかし、ホワイトハウスへの手紙は「貴重なご意見をいただき感謝いたします」とだけの返答で、結局は同年10月7日アメリカと英国による空爆が始まりました。潜水艦からの巡航ミサイルの攻撃も含めると第



9月号の紙面

- J's キャンプ報告・・・
 - 世界平和祈りの集い／インターナショナルデーの紹介・・・
 - OK委員会だより／主教コラム・・・
 - 教会紹介／常置委員会・局長会議報告・・・
 - 諸記念／主教巡回予定・・・
- ⑥ ⑤ ④ ③ ②

二次世界大戦でドイツ軍がロンドンに投下した爆弾総量の約半分1万トンに達したそうです。

宗教連盟での会議で話題になったのは、80年前の旧日本軍による真珠湾攻撃のことでした。

当時の日本はABCDライ

ンと呼ばれるれた石油等の経済封鎖で止むに止まれぬ(もろろん為政者側の言い分)攻撃であつたと

す。結果アメリカ人の民間人も含めて5000人の犠牲者を出したそうです。そしてアメリカは、リメンバールーパー(真珠湾を忘れるな)を合言葉に、総力を挙げて猛

烈な攻撃を日本に行いました。日中戦争も含めると犠牲者は270万人、300万人と言われます。そのことを話し合ったことを思い出します。

何の罪もない人々が突然のテロで命を奪われることには耐えがたい痛みがありますが暴力に対して暴力では平和を築くことはできないのではな

いかと思います。以前にも書かせていただきましたが、旧陸軍航空隊の生き残りの亡き父が「戦争が終わったから平和になったのでなく、戦争をしない努力から平和になるのだ」と言っていました。

戦争は始めるより終わらせ



る方が本当に難しいとは思いますが、これ以上の混乱が世界中の何処にも起こらないように祈りたいものです。

ダブル

「わたしと神さま」

私が初めて教会を訪れたのは「川口基督教会」でした。私の実家は真言宗、はじめて体験する教会の雰囲気はカルチャーショックそのもの。

結婚後は豊中に住み4人の子どもに恵まれました。上の2人はカトリック系幼稚園に通い、近所の方から家庭集会に招かれたりして、少しずつ福音に接する機会が増えました。

末の子が2歳になる少し前に夫がブラジルに出張することになり、留守の間、無事を祈ることから足繁く通うようになった教会での皆さんの励ましが心の支えになりました。地球の裏側で頑張ってくれている夫が何よりも喜んでくれるものと、その年の6月子どもたちと共に受洗しました。

私が神さまを一番近くに感じしたのは、二女が交通事故で泉南の「救急救命センター」に搬送され、意識が戻ったとき『神さまは居て下さった』と確信しました。私にとって神さまは一緒に居て下さると思うだけで心が穏やかになるそんなお方です。

(岸和田復活教会)

垣内 園子

Js キャンプ @ 北小松

「2年越しの集い」



僕たちが新型コロナウイルスとの闘いを始めてから1年半が経った。Js キャンプも中止を余儀なくされてきた。今年の夏も、あるのかないのか、とても不安だった。「ある」ということが決まってからも、直前で感染者数が増え、本当にキャンプを開くことができるのか、できたとしても、安全に過ごすことができるのか、様々な不安が頭をよぎった。しかし、このような社会状況にあっても、北小松に皆で集まることができてよかったと思う。そして、そのため

に尽力してくださった皆様、心からお礼を申し上げます。

コロナ禍で、日常は「非日常」となり、逆に今までの「非日常」だったことが日常となった。このような日々の中で、僕は一つのことを気付いた。それは、人と直接会うことの大切さだ。インターネットが普及した現代、画面ひとつで、遠く離れた地にいる人々とコミュニケーションをとることができる。しかし、直接、面と向き合っただけでなく、相手の細かい様子まではわからない。電話やメール、SNSだと、声だけ、文字だけとなり、ますます相手の様子、気持ちはわかりづらい。

改めて、人と直接会うことの大切さを2年ぶりのキャンプで感じた。それと同時に、今までの日常は、それを保つために働いている多くの人々の努力の上に成り立っている、ということに気が付き、そういう人々に感謝し、これまでの日常は「ありがたい」と思わなくてはならない、と思った。

1年、1週間先はおろか、

1日先でさえもどうなるかわからないこの世の中で、現実逃避というわけではないが、Js キャンプが開催され、参加できたのはよかったです。次もまた、参加したいと思う。

(京都復活教会 野田 怜)



「コロナ禍における憩い」を求めて

8月3日(火)から4日(水)で、1泊2日のJs キャンプ(現地参加者11名、オンライン参加者5名、現地スタッフ4名、オンラインスタッフ1

名)を京都復活教会北小松信徒研修所で実施できました。と、神さまに感謝します。またお祈りくださった皆さまにも心より感謝申し上げます。

大阪教区生涯学習委員会、京都教区教育部におきまして、今夏のJs キャンプをいかなる形で実施するかについて、さまざまな意見を交わしました。感染症に対する認識は、地域差により大きな差異がみられ、意見が一致するわけではありませんでした。

しかしながら、さまざまな意見交換の中で、京都教区は対面で感染症予防策を行いながら短縮型のキャンプを実施し、オンライン集会も行う。大阪教区は、キャンプ地から配信されるオンライン集会・礼拝(聖餐式)に参加するというコロナ禍での新たな形を模索する中で、キャンプ実施へと至りました。

このキャンプ、あるいはオンライン集会のテーマは、「コロナ禍における憩い」です。中高生たちのコロナ禍における疲弊を人里離れた琵琶湖畔の自然豊かなキャンプ場で、あるいはオンライン集会で出会っていただくことによって、少



しでも日頃の疲弊からの解消へとつながればと願っての開催でした。

感染症から「命を守る」ということが叫ばれます。しかし、命を脅かすのは、感染症だけではなくありません。私たちは、共に祈り、心の休息を得ることに、神さまから励まされる体験をします。心の疲弊を癒すこと、憩いを得ることに、平安を得ることが出来ます。

友人と出会うこと、共に祈ること、会えないけれど覚えて祈りあうことを通して、Js 世代のこどもたちの命が主に祈りし、仕えていきたいと願っています。

(司祭 松山 健作)

「世界平和祈りの集い」に参加して

8月4日(水)、比叡山延暦寺でおこなわれた「比叡山宗教サミット34周年 世界平和祈りの集い」に参加いたしました。

この祈りの集いは、1986年10月にローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の提唱で世界の宗教指導者がイタリアのアッシジに集まって、世界平和を希求する祈りをささげたことに端を発します。その祈りに参加していた山田恵諦天台座主は「アッシジの精神」を引き継ぎ、日本においても世界平和祈りの集いをとりおこなうことを世界の宗教者に提言しました。そして賛同を得て、1987年8月3日、4日「比叡山宗教サミット」『世界宗教者平和の祈りの集い』が比叡山山頂にておこなわれたという事です。以来、毎年世界平和のために諸宗教が集まって、祈られてきました。そこで出された「比叡山メッセージ」の一部をご紹介します。



あることをわれわれは認識し、かつ主張する。そもそも平和とは、単に戦争がないということではなく、人間どうしの睦み合う融和の状態、人類共同体の実現をいう。およそ正義や慈悲のないところに平和はない。かかる平和こそ、全ての宗教者によって誠実に希求されなくてはならない。われわれが祈るとき、われわれはまず平和の務めに相應しからぬことを認めざるをえない。そのゆえに、より忠実に献身しうるよう、自らの内面的革新をひたすら乞い求める。平和のために祈ることは、平和のために働くこと、そして平和のために苦しむことですらある。平和の大義に対する奉仕と犠牲は、さまざまなかたちや方法であらわされ、紛争の解決、核兵器および通常兵器の軍縮、開発、環境の

保全、人権、難民への配慮、不正な社会制度の変革などに資する働きとして具現されるであろう。宗教者は、常に弱者の側に立つことを心がけねばならない。

われわれの使命はあまりに大きく、われわれの力はあまりに小さい。それゆえわれわれは、まず祈りから始めなければならぬ。われわれを超えた大いなる力によってわれわれの真実の祈りは聴かれ、われわれの切なる願いは顧みられることをわれわれは認識し、確信する。祈りや瞑想、さらに感謝を通して、われわれの心と思いは浄められ、ささやかなりとはいえず平和のために役立つものとならしめられるであろう。

平和のために祈るべくここに集まったわれわれの営みが、世界の至るところで繰り返され、繰り上げられ、全人類が渴望してやまないこの大いなる平和の賜物が、われわれの時代に与えられんことを切に祈る。

わたしたち一人ひとり、平和への願いを込め、祈り続けていきましよう。

(司祭 古本 靖久)

インターナショナルデー

毎年10月第3主日の午後、カトリック大阪カテドラル聖マリア大聖堂(玉造)で、インターナショナルデー(以前は国際協力の日)が開催されていきました。様々な国にルーツを持つ人々が集まり、祈りと交わりの時を過ごすお祭りでした。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、今年も従来の集まりは難しいようです。

毎年2000〜3000人が集まっていますが、一堂に集まっていたのが、一堂に集まっていたのが、一堂に集まっていたのが「カラフルな人々と共に」をテーマに、「インターナショナルデーの祈り」を作成し、柳時京司祭とウイelson ウォーレン司祭へのインタビュ動画を作成しました。また、共に祈る具体的なアクションとして、「『外国人住民基本法』と『人種差別撤廃基本法』の制定を求める国会請願書…2020」への署名を呼びかけました。

ふだん共に祈っている外国にルーツを持つ教役者に聴

き、共に祈り、請願書署名のアクションを通して、「共に生き、共に生かし合う」ことの意味を一緒に考えよう、との趣旨からでした。

今年も「インターナショナルデーの祈り」を作成し、「外国人住民基本法」と「人種差別撤廃基本法」の制定を求める国会請願書…2021」への署名を呼びかけます。また、9月末にはRAFIQ(在日難民との共生ネットワーク)代表田中恵子さんの講演会を行なっています。各教会にご案内が届いていると思いますので、ぜひご参加ください。

私たちの社会が国籍に関係無く住みよい社会となりますよう、神さまがお造りになられた全ての「いのち」が大切にされる社会となりますよう、小さな歩みに加わってください。(司祭 古澤 秀利)

※5ページにインターナショナルデーの案内を掲載しています。そちらもご覧ください。

OK委員会だより

いよいよ、今年の定期教会会まで残すところ後2カ月となりました。

大阪・京都両教区が合併するの、しないのか。カウントダウンの始まりです。

教会会では合併の議案が提出され、審議いただくことになっております。承認されるためには3/4以上の賛成が必要です。両教区の信徒数は15年間で併せて3780人から2779名と約1000名減少しており、高齢化は休みなく進んでいます。其々の教区が独自の道を歩んでゆくの、それとも合併し、ひとりよりもふたりがよいの気持ちで力強い教区を創っていくのか、教役者・信徒の皆さまのお気持ちとお考えに委ねられます。

2011年の大阪教区及び京都教区の定期教会会に於いて「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討会」の設置が決議され、2年後の教会会に於いて報告があり、改めて「大阪教区・京都教区

の合併を推進する委員会」が立てられました。

その報告には合併することによって得られるメリットが多く、デメリットと思われる事は克服可能と判断され、合併について推進していく事が必要であるとありました。

しかしながら、解決しなければならぬ問題が多くあり、其々の教区の教会・信徒の理解と意見の一致がまだまだ不十分であり、さらに時間をかけて、合意形成に努める必要があることから、2015年両教区会での議案提出は見送られました。

その後、2016年の教会会に於いて「大阪・京都特別協働教区運営委員会」が立ち上げられ、私もその一人として参画することとなりました。協働の強化、合併に向けて具体的な取り組みを行う事を念頭に、この5年間議論が進められてきました。

2017年には京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会)に於いて、「特別協働教区」関係協定書の締結が行われました。運営委員会内には合併に向けての問題点や課題について話し合うためのワーキン

ググループが設けられ、それぞれの教区内の事や、色々なことを知って頂くとの思いから、合併についてのQ&A、Kyodoニュース(1号から4号)等の情報発信がなされてきました。大阪教区では、各教会に磯晴久主教様と運営委員が説明に回られ、京都教区では8月中旬より各伝道区

で説明会をさせていただきました。

教会会に向けQ&A以外のことにしても話し合いが継続されています。それでも結論が出しにくい課題も有りますし、合併議案可決後に時間を掛けて議論しなければならぬ課題もあります。私たち運営委員は、「祈りの仲間

ら、別れる気持ちを整えることが大事だと思えば思うほど、もっと生きていたいという正直な気持ちを置き去りにしてしま

相方に勧められた小説を読みました。ホスピスが舞台の小説で、この夏、テレビドラマにもなったようです。何度もうるうるしながら読みました。心に残った言葉、「人は生きていく限り、変わるチャンスはある。」残り僅かな人になる(チャンスはある)というの、知らない間に「もうこれでよし」と思ってしまった。自分にも向けられた言葉でありました。

もう一つ、「死を受け入れる」ということは、もっと長生きしたいという気持ちも正直に認めることだ。」この言葉は一つ目と通じるところがあります。あと少しでこの世にもみんなもお別れなのだか

ら、別れる気持ちを整えることが大事だと思えば思うほど、もっと生きていたいという正直な気持ちを置き去りにしてしま

を増やそう」「多様性がうみ出す豊かな宣教と牧会」の標語を旨に、ここまで懸命に準備してまいりました。神様から与えられた合併という大きな転換点に、皆さまの良きご判断をお願いいたします。

(大津聖マリア教会

前田 満)

こぶはいくつ？

(コリント14:29) その人たちの言葉は神様の言葉を預かった言葉かどうか、他の人たちが「検討、評価」するのだと言われています。時々止まって、自分は突っ走ってはいないか検討する。

今朝、いつの間にか残り少なくなったポップコーンを食べていて、相方がやってきたので袋を差し出したら、「もう一袋あるし」(へっ、知らなかった)。「湿気てるのはとーさんにあげるし」と言っ



て向こうへ行きました。除湿剤が入っていたので湿気てはいなかったのですが、問題は、「もう一袋ある」ことを知らなかったことでしょうか。

(京都教区主教 高地 敬)

も、二人か三人が語り、他の者はそれを検討しなさい。」

教会紹介 大阪編

聖ガブリエル教会

聖ガブリエル教会は1925年に張本栄師(チャンボン)が在日同胞への伝道のため、天王寺区細工谷の聖ヨハネ学園内で持った集会から出発しました。1932年に生野区勝山北へ礼拝所を新築移転しますが、戦中には集会禁止・教会閉鎖となり取り壊されます。

1954年、私宅を改造して生野宣教を再開。1966年に張牧師が就眠。1978年からナンバプラザビルの一室で主日礼拝を守ります。

1986年に管区総会で「聖ガブリエル教会と地域活動センターの建設・募金」が議決され、1992年に「こひつじ乳児保育園」、「聖公会生野センター」と同居の建物に、礼拝堂・牧師館が完成します。(司祭 古澤 秀利)



京都教区

【常置委員会報告】 8/23

1. 報告事項

- ▼主教報告
- 8月3日に主教座聖堂理事会が開かれ、聖堂改修や留守番ボランティアについて話し合われた。
- ▼常置委員会報告
- 8月3日に大阪教区との合同常置委員会懇談会をおこなった。

▼聖職養成委員会

- 9月2日に夏の実習の振り返りのため、教区の神学生との懇談を行う。

- ▼特別協議教区運営委員会
- 各伝道区での合併説明会の報告がなされた。
- ▼京都事件・体質改善関係
- 検証報告書作成作業の経過報告を受けた。
- ▼「中日本宣教協働区」協働委員会
- オンラインを利用した礼拝、チャプレン研修などの共通プログラムの可能性を考えている。

2. 協議事項

- 2021年の定期教区会の開催方法について協議した。今年も伝道区ごとの分散方式とする方向で準備をしていく。

【局長会議報告】 8/26

1. 宣教局報告

- ▼J's キャンプの代替プログラムとして「2021夏J's キャンプおよびオンライン集会」が感染対策を取りながら8月3日(火)〜4日(水)に行われた。

2. 財政局報告

4. 協議事項

- ▼定期教区会について協議した。(文責：局長会議書記)
- ▼2021年度教区経常費収支月次報告(7月31日)
- ▼9月25日(土)に第2回財政局会議を行う。
- ▼3. その他報告
- ▼京都教区内で教区合併について各伝道区で説明会が行われている。

ご案内

カラフルな人びとと共に

— インターナショナルデーを覚えて —

2021年10月17日(日)

それぞれの教会・場所で「インターナショナルデーの祈り」をおさげください。「『外国人住民基本法』と『人種差別撤廃基本法』の制定を求める国会請願書」にご署名ください。*お祈りと請願書は後日教会にお送りします。下記、大阪教区インターナショナルデーのサイトからダウンロードできます。

日本における「難民」の生活と支援の実態を知る オンラインセミナー



日時：2021年9月27日(月)19:00~20:30
講師：田中恵子さん
<RAFIQ (在日難民との共生ネットワーク) 共同代表>
*オンラインでの配信です。下記のサイトからお申し込みください。配信URLをお送りします。

大阪教区インターナショナルデーのサイト
<https://www.nskk.org/osaka/INday/>



主催：日本聖公会大阪教区宣教局
お問い合わせ 担当：司祭 古澤秀利 TEL 06-6771-4123
メール jfhd@icloud.com

ぜひ！署名にご協力をおねがいします

署名「『外国人住民基本法』と『人種差別撤廃基本法』の制定を求める国会請願書」について
例年、皆様の教会へ『外国人住民基本法』と『人種差別撤廃基本法』の制定を求める国会請願書の署名用紙が届いていることと思います。本年度も沢山のかたがたのご協力があり、ご署名をいただきましたことを誠に感謝いたします。

しかしまだこれがどのようなものであるのか、ということがそれほど知られていないように感じます。この署名は外国にルーツを持つすべての人びとも日本人も互いに共生できるように、一人の住民として行政サービスを受けられることを要望するものです。言いかえると、住民として当たり前人が持つ権利を、今与えられていない外国にルーツを持つ人もこの権利を享受できるはず、というのがこの署名の趣旨なのです。

どうぞ皆様も一人ひとりが当然持つべき権利の保証を認め、この日本がますますカラフルな共生社会となるようにご協力をよろしくおねがいします。



←こちらのQRコードより、署名用紙のPDFを取得することが出来ます。

大阪教区関係教役者
10月逝去者記念聖餐式

10月13日(水) 10:30~

- 2日 司祭 ジョージ・チャプマン (1940年英)
- 5日 司祭 サムエル 福田 光宏 (2013年)
- 9日 主教 ヨハネ 山田 襄 (1993年)
- 12日 司祭 マルコ 岡 精三 (1997年)
- 16日 主教 ペテロ 松井 米太郎 (1946年)
- 主教 サムエル・ヘーズレット (1947年英)
- 18日 司祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928年)
- 20日 司祭 チャールズ・セオドア・ワレン(1949年英)
- 23日 司祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971年)
- 24日 司祭 深田 直太郎 (1945年)
- 司祭 ペテロ 横田 久明 (1995年)
- 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971年英)
- 29日 司祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング (1927年米)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

京都教区関係逝去教役者
10月記念聖餐式

10月20日(水) 10:30~

- 9日 司祭 浜田 清夫 (1969年)
- 主教 ヨハネ 山田 襄 (1993年)
- 12日 司祭 パウロ 速水 敏彦 (2008年)
- 21日 司祭 マタイ 中村 愿 (1931年)
- 24日 主教 サムエル 法用 渉 (1997年)
- 25日 司祭 ヨセフ 小谷 春夫 (2016年)
- 28日 伝道師 藤本 與喜 (1944年)
- 司祭 ペテロ 直川 久之助 (1985年)
- 29日 司祭 T.S.チング (1927年)
- 伝道師 マリア 北村 美津子 (1961年)
- 司祭 ヨセフ 坪井 弘国 (1968年)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第3水曜日午前10時30分から、聖アグネス教会で行われます。

堅 信

京都聖マリア教会(8月7日)
ケルビム 吉村 碧

逝 去 者

大津聖マリア教会(6月7日)
ハンナ 井田 敏子
大阪聖愛教会 (6月22日)
ヨハネ 寺村 隆

マリヤ 伊勢田 ムツミ
芦屋聖マルコ教会(7月24日)
ヨエル 吉田 常夫

石橋聖トマス教会(7月30日)
ヨナタン 杉本 明

尼崎聖ステパノ教会(8月2日)
恒光 敏子

四日市聖アンデレ教会
アンデレ 伏見 富和

西宮聖ペテロ教会(8月13日)
サラ 藤井 千代子

岸和田復活教会(8月22日)
フランシス 廣海 效太郎

主教巡回予定(10月)

大 阪

3日 石橋聖トマス教会
10日 庄内キリスト教会

17日 大阪聖パウロ教会
(堅信式予定)

24日 守口聖オーガスティン教会
31日 聖贖主教会

京 都

3日 八木基督教会
10日 加悦聖三一教会
17日 福井聖三一教会
24日 京都聖マリア教会
31日 聖アグネス教会 (堅信式)

大阪教区教役者、信徒の皆様へ
大阪教区合同埋葬式のご案内

日時: 2021年11月6日(土) 14時より
場所: 大阪霊園
(大東市龍間331 TEL 0120-69-1117)
申請締切り: 9月末
お問い合わせは大阪教区事務所 太田まで

「大阪聖アンデレ教会 聖別一周年感謝礼拝」
司式・説教
大阪教区主教 アンデレ磯晴久 師父
2021年10月16日(土) 14時~
大阪聖アンデレ教会にて
(大阪市阿倍野区昭和田町 3-1-57)
聖餐式および見学会(祝会はありません)
※出席については、大阪教区内各教会から
2人まで